

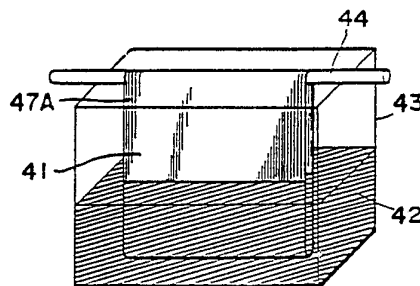
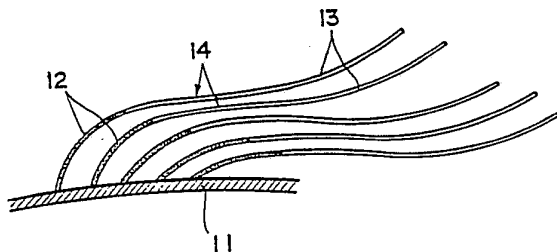


特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(51) 国際特許分類 ⁴ A41G 3/00, D06P 5/00		A1	(11) 国際公開番号 WO 89/ 05104
			(43) 国際公開日 1989年6月15日 (15.06.89)
(21) 国際出願番号 PCT/JP88/00282 (22) 国際出願日 1988年3月18日 (18. 03. 88) (31) 優先権主張番号 実願昭 62-187660 U 特願昭 62-334248 実願昭 62-199505 U 実願昭 62-199506 U 特願昭 63-20931 (32) 優先日 1987年12月9日 (09. 12. 87) 1987年12月29日 (29. 12. 87) 1987年12月29日 (29. 12. 87) 1987年12月29日 (29. 12. 87) 1988年1月30日 (30. 01. 88) (33) 優先権主張国 JP (71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について) アデランス工業株式会社 (ADERANS KOGEI CO., LTD.) (JP/JP) 〒959-26 新潟県北蒲原郡中条町平根台1番地1 Niigata, (JP) (72) 発明者: および (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ) 磯部 嘉彦 (ISOBE DATE, Yoshihiko) (JP/JP) 佐藤 敏彦 (SATO, Toshihiko) (JP/JP) 〒959-26 新潟県北蒲原郡中条町平根台1番地1 アデランス工業株式会社内 Niigata, (JP)		(74) 代理人 弁理士 牛木 護 (USHIKI, Mamoru) 〒951 新潟県新潟市文京町12番28号 Niigata, (JP) (81) 指定国 AT (欧州特許), BE (欧州特許), CH (欧州特許), DE (欧州特許), FR (欧州特許), GB (欧州特許), IT (欧州特許), LU (欧州特許), NL (欧州特許), SE (欧州特許), US. 添付公開書類 国際調査報告書	

(54) Title: WIG, HAIR ACCESSORY AND DYEING METHOD FOR ARTIFICIAL HAIR

(54) 発明の名称 かつら及びヘア・アクセサリと人工毛髪の染色法



(57) Abstract

This invention relates to a wig wherein each hair (14) consisting of a synthetic resin is dyed in a dense or dark color at the root and light or bright color or color tone (12, 13) at the tip and simulates fading of the hair. The invention relates also to a decorative wig or hair accessory wherein each hair (24, 34), consisting of one synthetic resin fiber has a plurality of kinds of colors or color tones (21, 22, 23, 31, 32, 33) from its root side to its tip side. The invention relates further to a dyeing method which dips hair materials (41) into dyeing solutions (42, 42A-42F) having a plurality of colors or color tones. The invention can prevent bulkiness and rise on the root side of the hair, can simulate fading of the hairs and can enrich the hairs with varieties of colors and color tones.

(57) 要約

一本の合成繊維からなる毛髪14の根元側に濃または暗、先部側に淡または明の色彩または色調12, 13を有する毛髪の退色を擬するかつらである。また、一本の合成繊維からなる毛髪24, 34の根元側から先部側にわたり複数種の色彩または色調21, 22, 23, 31, 32, 33を有する装飾かつら又はヘア・アクセサリーである。また毛材41を複数の色彩または色調の染液42, 42A～42Fに浸してなる染色法である。毛髪の根元側の嵩張りや立上りを防止して毛髪の退色を擬することができ、また多くの色彩や色調によるバリエーションに富ませることができる。

情報としての用途のみ

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第1頁にPCT加盟国を同定するために使用されるコード

AT	オーストリア	FR	フランス	MR	モーリタニア
AU	オーストラリア	GA	ガボン	MW	マラウイ
BB	バルバドス	GB	イギリス	NL	オランダ
BE	ベルギー	HU	ハンガリー	NO	ノルウェー
BG	ブルガリア	IT	イタリア	RO	ルーマニア
BJ	ベナン	JP	日本	SD	スーダン
BR	ブラジル	KP	朝鮮民主主義人民共和国	SE	スウェーデン
CF	中央アフリカ共和国	KR	大韓民国	SN	セネガル
CG	コンゴ	LI	リヒテンシュタイン	SU	ソビエト連邦
CH	スイス	LK	スリランカ	TD	チャード
CM	カメルーン	LU	ルクセンブルグ	TG	トーゴ
DE	西ドイツ	MC	モナコ	US	米国
DK	デンマーク	MG	マダガスカル		
FI	フィンランド	ML	マリ		

明 細 書

かつら及びヘア・アクセサリーと人工毛髪の染色法

技 術 分 野

本発明は、毛髪の退色を擬するかつら及び装飾かつら及びヘア・アクセサリーと人工毛髪の染色法に関する。

背 景 技 術

毛髪は生え初めは暗い色であるが、その後日光による退色あるいは洗髪等による変色によって次第に明るい色になり、これによって毛髪の根元側と先部側は明暗の違いを有している。そして、この明暗の状態は特に欧米人の毛髪に顕著に表われ、例えば生え初めが茶色系であっても日光による退色等によって茶色系より明るい色彩、色調の金色系になり、このようにして毛髪の先部側が金色系であっても根元側が茶色系であるのが自然である。

このような毛髪の退色を擬するために、第26図に示すようにかつらベース1に淡い色を有する長寸の毛髪2と濃い色を有する短寸の毛髪3を植毛することにより、短寸の毛髪3に

よって根元側の濃い状態を表わし、長寸の毛髪２によって先端側の淡い状態を表わすようにしている。

上記従来技術においては、淡い色を有する長寸の毛髪２と濃い色を有する短寸の毛髪３とでかつらを構成しているため、根元側は長寸の毛髪２と短寸の毛髪３とが重複し、根元側の毛髪量は先端側の毛髪量に比べ非常に多量になって嵩張り、かつ根元側の毛髪２，３は立上るようになってしまうため不自然であるという問題を有していた。

また、従来のヘア・アクセサリとして、黒色，赤色，紫色等の各種色に染色した合成繊維を各種色毎に各基端を結束して一体物となし、これにヘアピンを装着した多色小形結束を頭部の一部または全体に装着するようにしたものが提案されている。また化学繊維または地毛等からなる複数本の毛髪を単一色または複数色に染色すると共にその基部を結束して一体物となし、その結束部位をヘアピン，くし，止め金または水溶性接着剤で装着するようにしたものが提案されている。

上記従来技術においては両者共各毛髪的一端側から他端側にわたり単一色であるため、仮りに複数色を現わす場合でも黒，赤，紫等のうち任意の同一色の集束体の並びとなり、ファッション効果に乏しいという問題があった。

そこで本発明は毛髪の根元側の嵩張りおよび立上りを防止して毛髪の退色を擬することが可能なかつらおよび装飾性に優れた装飾かつら、ヘア・アクセサリーを提供することを目的とする。

また本発明は上記かつら、ヘア・アクセサリーに使用する人工毛髪の染色法を提供することを目的とする。

発 明 の 開 示

本発明による毛髪の退色を擬するかつらは、一本の合成繊維からなる毛髪の根元側に濃または暗、先端側に淡または明の色彩または色調をそれぞれ有し、この毛髪をかつらベースに植毛してなり、根元側と先端側とが同一またはほぼ同一の毛髪量を有することを特徴とする。

また本発明による装飾かつらは、一本の合成繊維からなる毛髪の根元側から先端側にわたり相互に異なる複数の色彩または色調を設け、この毛髪を前記複数の色彩または色調が相互に異なるようにした複数種設け、この複数種の毛髪をかつらベースに植毛するとともに、前記複数種の毛髪の前記複数の色彩または色調の境目が植毛によってぼけるようにしたことを特徴とする。

また本発明によるヘア・アクセサリーは、一本の合成繊維からなる毛髪的一端側から他端側にわたり相互に異なる複数の色彩または色調を設け、この毛髪を前記複数の色彩または色調が相互に異なるようにして複数種設け、この複数種の毛髪を複数本一体物にしてなることを特徴とする。

また本発明による人工毛髪の染色法は合成繊維からなる毛材をこの毛材と異なる色彩または色調を有する染液または相互に異なる色彩または色調を有する複数の染液に浸して、一本の毛髪に複数の異なる色彩または色調を有するようになることを特徴とする。

図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例であり、第1図および第2図は毛髪の退色を擬するかつらを示し、第1図は断面図、第2図は要部の拡大断面図、第3図乃至第5図は装飾かつらの第1実施例を示し、第3図は斜視図、第4図は断面図、第5図は要部の拡大断面図、第6図および第7図は装飾かつらの第2実施例を示し、第6図は断面図、第7図は要部の拡大断面図、第8図および第9図は装飾かつらの第3実施例を示し、第8図は断面図、第9図は要部の拡大断面図、第10図乃至第12図は

ヘア・アクセサリーの第1実施例を示し、第10図は斜視図、第11図は要部の拡大図、第12図は使用状態図、第13図乃至第15図はヘア・アクセサリーの第2実施例を示し、第13図は斜視図、第14図は毛髪を伸した状態の拡大図、第15図は使用状態図、第16図乃至第18図はヘア・アクセサリーの第3実施例を示し、第16図は斜視図、第17図は要部の拡大図、第18図は使用状態図、第19図および第20図は和服用ヘア・アクセサリーを示し、第19図は斜視図、第20図は使用状態図、第21図(A)(B)(C)、第22図(A)(B)(C)(D)(E)、第23図(A)(B)(C)(D)(E)、第24図(A)(B)(C)(D)(E)および第25図は染色法の実施例を示す概略説明図、第26図は従来例を示す断面図である。

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明の一実施例を添付図面を参照して説明する。

第1図および第2図は毛髪の退色を擬するかつらを示し、同図に示すように、かつらベース11に、一本一本が根元側に濃または暗の色彩または色調を有する部分12を有し、かつ先端側に淡または明の色彩または色調を有する部分13を有する毛髪14を植毛して毛髪の退色を擬するかつら15を構成してい

る。前記かつらベース11はポリウレタン樹脂やシリコン樹脂等の各種の合成樹脂が用いられ、必要に応じ通気用ネットが設けられる。前記毛髪14はアクリル、モダアクリル、塩化ビニル、ナイロン等の合成繊維からなる。

このように上記実施例においては、一本一本の合成繊維からなる毛髪14が根元側に濃または暗の色彩または色調を有する部分12を設け、かつ先部側に淡または明の色彩または色調を有する部分13を設け、この毛髪14をかつらベース11に植毛することにより毛髪の退色の感じが自然に現出される。このため、従来のように長、短の毛髪を植毛することによって退色の感じを表わすもののように根元側の毛髪量が大幅に増えて嵩張り、かつ立上るようなことがない。すなわち根元側と先部側の毛髪量が同一またはほぼ同一であるため、一般的なかつらと同様に根元側は嵩張らずかつ立上るようなことがなく非常に自然に近い状態で退色を擬することができる。また、予め染色を施した毛髪14をかつらベース11に植毛するから、この植毛作業に際して毛髪14の濃または暗と淡または明の色彩または色調の部分12、13の境目が相互にずれて全体としてその境目が自然にぼけるようになり一層自然な感じで毛髪の退色を擬するかつらが得られる。

第3図乃至第5図は装飾かつらの第1実施例を示し、同図に示すように、一本一本が根元側に赤色部分21を有し、中央側に青色部分22を有し、かつ先部側に黄色部分23を有する合成繊維からなる毛髪24と、一本一本が根元側に赤色部分21を有し、中央側に緑色部分25を有し、かつ先部側に紫色部分26を有する合成繊維からなる毛髪24Aとを混合してかつらベース27に植毛して装飾かつら28を構成するものである。そして、この装飾かつら28は根元側と先部側とが同一またはほぼ同一の毛髪量となって毛髪の根元側の嵩張りおよび立上りを防止できるとともに、一本一本の毛髪24、24Aはそれぞれ赤、青、黄色部分21、22、23あるいは赤、緑、紫色部分21、25、26を有し、この色彩が相互に異なる二種類の毛髪24、24Aをかつらベース27に植毛しているため、赤、青、黄、緑、紫色の豊富な色彩によって優れたファッション効果が得られる。また毛髪24、24Aをかつらベース27に植毛することによって豊富な色彩の境目が相互にずれて自然にぼけるようになり良好な自然感が得られる。また毛髪24、24Aを適当長さカットすることによって毛先側の色が変わることになり、ヘアーの感じを毛髪24、24Aのカットによって簡単に変えることができる。この場合、赤、黄、青等の色彩の数および種類は適宜選定す

ればよく、かつらベース27に植毛される毛髪24, 24Aの種類は二種類の場合を示したが三種類以上のものを植毛してもよく、また同一種類の毛髪をそれぞれ一箇所にとめて植毛したりあるいは混合状態で植毛したりすればよい。

第6図および第7図は装飾かつらの第2実施例を示し、同図に示すように、一本一本が根元側に赤色部分21を有し、中央側に青色部分22を有し、かつ先部側に黄色部分23を有する合成繊維からなる毛髪24と、一本一本が根元側から中央側にわたり赤色部分21を有し、かつ先部側に青色部分22および黄色部分23を有する合成繊維からなる毛髪24Bとを混合してかつらベース27に植毛して装飾かつら28Aを構成するものである。そして、この装飾かつら28Aにおいても一本一本の毛髪24, 24Bの色彩が赤, 青, 黄と同一でありながらその各色の着色範囲が相互に異なる複数種の毛髪24, 24Bの混合によって上記実施例と同様な作用効果が得られる。この場合、一本一本の毛髪24, 24Bの色彩の数および種類は適宜選定すればよく、三種類以上のものを植毛してもよい。また第3図乃至第5図で示した実施例と組み合わせて用いてもよい。

第8図および第9図は装飾かつらの第3実施例を示し、一本一本が根元側に赤色の濃または暗の色調を有する部分21A

を有し、中央側に赤色の中の色調を有する部分21Bを有し、かつ先部側に赤色の淡または明の色調を有する部分21Cを有する合成繊維からなる毛髪24Cと、一本一本が根元側から中央側にわたり赤色の濃または暗の色調を有する部分21Aを有し、先部側に赤色の中の色調を有する部分21Bおよび赤色の淡または明の色調を有する部分21Cを有する合成繊維からなる毛髪24Dとを混合した状態でかつらベース27に植毛して装飾かつら28Bを構成するものである。またこれら毛髪24C, 24Dに加えて一本一本が例えば黄色の色調で上記のように複数種に変えて着色したものを植毛してもよい。そして、この装飾かつら28Bにおいても一本一本の毛髪24C, 24Dが全体に赤, 黄等の同一色でありながらその色調の変化が相互に異なるものを複数種組合せて植毛することによって、上記実施例と同様に豊富な色調を有するファッション効果に優れた装飾かつらが得られる。

第10図乃至第12図はヘア・アクセサリーの第1実施例であり、同図に示すように、一本一本が一端側に赤色部分31を有し、中央側に青色部分32を有し、かつ他端側に黄色部分33を有する合成繊維からなる毛髪34と、一本一本が一端側に赤色部分31を有し、中央側に緑色部分35を有し、かつ他端側に紫

色部分36を有する合成繊維からなる毛髪34Aとを設け、これら複数の色彩の状態を異にする二種の毛髪34, 34Aを混ぜ合せて束ね、かつウェーブを形成した一体物としてヘア・アクセサリー37を構成し、これをヘアピン, 止め金, 接着剤等の図示しない装着具によって頭部に装着するものである。そして、このヘア・アクセサリー37は一本一本に赤, 青, 黄色部分31, 32, 33または赤, 緑, 紫色部分31, 35, 36を有する二種類の毛髪34, 34Aを束ねることによって赤, 青, 黄, 緑, 紫色等多くの色彩によるバリエーションに富んだファッション効果が得られる。また二種類の毛髪34, 34Aの組み合わせ具合の変化によって一層バリエーションに富んだものになる。この場合赤, 黄, 青, 紫等の色彩の数および種類は適宜選定すればよく、また二種類の毛髪34, 34Aを組合せたものとしたが三種類以上を組合せてもよい。また双方の毛髪34, 34Aをそれぞれまとめるようにして束ねてもよくあるいは毛髪34, 34Aを交互にして束ねてもよい。

第13図乃至第15図はヘア・アクセサリーの第2実施例を示し、一本一本が一端側に赤色部分31を有し、中央側に青色部分32を有し、かつ他端側に黄色部分33を有する合成繊維からなる毛髪34の束38と、一本一本が一端側から中央側にわたり

赤色部分31を有し、かつ他端側に青色部分32および黄色部分33を有する合成繊維からなる毛髪34Bの束38Aと、一本一本が一端側に赤色部分31および青色部分32を有し、かつ中央側から他端側に黄色部分33を有する合成繊維からなる毛髪34Cの束38Bとを編込んで編成体であるヘア・アクセサリー37Aを構成し、これを頭部に装着するものである。そして、このヘア・アクセサリー37Aは赤、青、黄からなる同一の色を有しながら、その色の染色長さが相互に異なる三種の毛髪34、34B、34Cを用いているため、複数の同一種類の色彩の状態がバリエーションに富み優れたファッション効果が得られる。この場合各束にそれぞれ三種類の毛髪34、34B、34Cを混合させてもよく、また色彩の数および種類は適宜選定すればよい。また編成構造あるいは束数は適宜選定すればよい。

第16図乃至第18図はヘア・アクセサリーの第3実施例を示し、一本一本が一端側に赤色の濃または暗の色調を有する部分31Aを有し、中央側に赤色の中の色調を有する部分31Bを有し、かつ他端側に赤色の淡または明の色調を有する部分31Cを有する合成繊維からなる毛髪34Dと、一本一本が一端側から中央側にわたり赤色の濃または暗の色調を有する部分31Aを有し、他端側に赤色の中の色調を有する部分31Bおよび

赤色の淡または明の色調を有する部分31Cを有する合成繊維からなる毛髪34Eと、一本一本が一端側に赤色の濃または暗の色調を有する部分31Aおよび中の色調を有する部分31Bを有し、かつ中央から他端側に淡または明の色調を有する部分31Cを有する合成繊維からなる毛髪34Fを混合し、かつカーリングしてベース39に植毛することによってヘア・アクセサリー37Bを構成し、これを図示しない装着具を介し頭部に装着するものである。そして、このヘア・アクセサリー37Bは同一色でありながら複数の色調の状態が相互に異なる三種の毛髪34D, 34E, 34Fの組み合わせによってバリエーションに富んだファッション効果が得られる。この場合色調の変化段階数および毛髪の種類は適宜選定すればよい。

また第19図, 第20図のように和服用のヘア・アクセサリーに本発明を適用してもよく、ヘア・アクセサリーのパターンは各種のものに適用できる。

次に、上記毛髪の退色を擬するかつら、装飾かつら及びヘア・アクセサリーに使用される人工毛髪の染色法について説明する。

まず、アクリルまたはアクリル系, 塩化ビニル系, ナイロン系, ポリエステル系等の合成繊維からなる毛材41を用意す

る。また、カチオン・酸性・酸性媒染・含金属等の染料を前記合成繊維の種類に応じて使用する。そして、染料を水にて所望の濃度になるように薄め、染色助剤を加えて調節した染液42を温度調整可能な図示しない加熱手段を有する染槽43に収容する。このようにして、第21図(A)のように市販品である全体が淡または明の色彩または色調の合成繊維からなる毛材41を任意の幅寸法で巻いたものに連結部材たる棒44を挿通し、この状態で例えば1/2幅だけ濃または暗の色彩または色調を有する染液42内に浸して染色を行い、その後水洗いおよび乾燥を行った後第21図(B)の上端ライン45を切断する。このようにしてなる毛髪46を展開すると第21図(C)のように根元側となる中央部分に濃または暗の色彩または色調を有する部分47が染色によって得られ、かつ先端側となる両端部分には予め染色されている淡または明の色彩または色調を有する部分47Aが表われる。そして、このように染色された毛髪46を図示しないかつらベースに植毛することにより毛髪の退色の感じが自然に現出され、これによって従来のように長、短の毛髪を植毛することによって退色の感じを表わすもののように根元側の毛髪量が大幅に増えて嵩張り、かつ立上るようなことがない。

第22図（A）乃至（E）は他の染色法を示し、第22図（A）のように市販品である全体が淡または明の色彩または色調の合成繊維からなる毛材41を任意長さに切断してその両端を一对の棒44に固定し、これを第22図（B）のように2つ折り状にして中の色彩または色調を有する染液42Aに浸して染色を行い、その後水洗いおよび乾燥を行って第22図（C）のように中の色彩または色調を有する部分47Bと淡または明の色彩または色調を有する部分47Aを有するものになる。その後第22図（D）のように中の色彩または色調を有する部分47Bの一部を濃の色彩または色調を有する染液42に浸して染色し、このようにして第22図（E）のように淡，中，濃の色彩または色調を有する部分47A，47B，47を有する毛髪46Aが得られる。この場合無色（未染）の合成繊維からなる毛材を用意して濃淡の色彩または色調を有する部分47，47A双方を染色するようにしてもよい。そしてこれらをかつらベースに植毛することによって上記実施例と同様な効果が得られる。

第23図（A）乃至（E）は他の染色法を示し、第23図（A）のように市販品である全体が黄色系に染色された合成繊維からなる毛材41Aを任意長さに切断してその両端を一对の棒44に固定し、これを第23図（B）のように2つ折り状にしてそ

の中央より片側を赤色系の染液42Bに浸して染色を行い、その後水洗いおよび乾燥を行って第23図(C)のように赤色系に染色された部分47Cと黄色系部分47Dを有するものを得る。その後第23図(D)のように2つ折り状にした中央より他側を青色系の染液42Cに浸して染色し、このようにして第23図(E)のように複数の色彩を有する毛髪46Bが得られる。そしてこの毛髪46Bをかつらベースに植毛したり地毛に装着することによって非常に豊富な色彩的効果を有するファッションかつらまたはファッションアクセサリとして使用できる。

第24図(A)乃至(E)は他の染色法を示し、市販品である全体が黄色系の合成繊維からなる毛材41Aを任意長さに切断してその両端を一对の棒44に固定し、これを第24図(A)のように真直にした状態で上端部分を残して赤色系の染液42Bに浸して染色を行いその後水洗いおよび乾燥を行った後、第24図(B)のように赤色系部分47Cの上端部を残して青色系の染液42Cに浸して染色を行いその後水洗いおよび乾燥を行った後、第24図(C)のように青色系部分47Eの上端部を残して緑色系の染液42Dに浸して染色を行いその後水洗いおよび乾燥を行った後さらに第24図(D)のように緑色系部分47Fの上端部を残して紫色系の染液42Eに浸して染色を行い

その後水洗いおよび乾燥を行うことにより、複数の色彩を有する毛髪46Cを得ることができ、これを用いてファッションウィッグおよびファッションアクセサリとして上記実施例と同様な効果が得られる。この場合上記実施例においては無色（未染）の合成繊維からなる毛材を使用する場合第25図のように毛材41, 41Aを47Aまたは47Dの色彩または色調部分を有する染液42Fに浸して染色してから上記各工程を行うようにしてもよい。また、所望箇所に染色するようにしてもよい。さらにまた、第21図（C）、第22図（E）、第23図（E）、第24図（E）の中心線は毛髪46, 46A, 46B, 46Cの植毛時の結節箇所を示している。

合成繊維がアクリルまたはアクリル系の場合の染色法の一例として、まず、アクリルまたはアクリル系等の合成繊維からなる毛材41, 41Aを用意する。また、カチオン等の染料を前記合成繊維の種類に応じて使用する。そして、例えばカチオン染料を水にて所望の濃度になるように薄め、酢酸を加えてPH3～5になるように調節した染液42, 42A, 42B, 42C, 42D, 42E, 42Fを温度調整可能な図示しない加熱手段を有する染槽43に収容し、促染剤を用いて染液42, 42A, 42B, 42C, 42D, 42E, 42Fの温度が80～90℃程度で染色で

きるようにする。このようにして、上記第21図乃至第25図と同様に染色することによって、毛材を傷めることなく良好に染色される。

なお本発明は上記実施例に限定されるものではなく本発明の要旨の範囲内において種々の変形実施が可能である。例えばかつらベースの全体に毛髪を植毛している例を示したかつらベースの一部に毛髪を植毛してもよい。また合成繊維、染料、促染剤等の種類は適宜選定すればよい。また色彩、色調の数は2以上を適宜選定すればよい。

産業上の利用可能性

以上のように、本発明によるかつら及びヘア・アクセサリーと人工毛髪の染色法は、毛髪の退色を擬するかつらとして有用であり、また多くの色彩又は色調によるバリエーションに富んだ装飾かつら、ヘア・アクセサリーとして有用である。

請 求 の 範 囲

- (1) 一本の合成繊維からなる毛髪の根元側に濃または暗、先部側に淡または明の色彩または色調をそれぞれ有し、この毛髪をかつらベースに植毛してなり、根元側と先部側とが同一またはほぼ同一の毛髪量を有することを特徴とする毛髪の退色を擬するかつら。
- (2) 一本の合成繊維からなる毛髪の根元側から先部側にわたり相互に異なる複数の色彩または色調を設け、この毛髪を前記複数の色彩または色調が相互に異なるようにした複数種設け、この複数種の毛髪をかつらベースに植毛するとともに、前記複数種の毛髪の前記複数の色彩または色調の境目が植毛によってぼけるようにしたことを特徴とする装飾かつら。
- (3) 一本の合成繊維からなる毛髪は、その根元側から先部側にわたり相互に異なる色調でかつ同一の色彩からなる複数の色を有することを特徴とする請求の範囲第2項記載の装飾かつら。
- (4) 一本の合成繊維からなる毛髪の一端側から他端側にわたり相互に異なる複数の色彩または色調を設け、この毛

髪を前記複数の色彩または色調が相互に異なるようにして複数種設け、この複数種の毛髪を複数本一体物にしてなることを特徴とするヘア・アクセサリー。

(5) 一本の合成繊維からなる毛髪的一端側から他端側にわたり相互に異なる複数の色彩または色調を設け、この毛髪を多数束ねてなることを特徴とする請求の範囲第4項記載のヘア・アクセサリー。

(6) 一本の合成繊維からなる毛髪的一端側から他端側にわたり相互に異なる複数の色彩または色調を設け、この毛髪の束を複数形成し、この複数の束を編込んで編成体とすることを特徴とする請求の範囲第4項記載のヘア・アクセサリー。

(7) 一本の合成繊維からなる毛髪的一端側から他端側にわたり相互に異なる複数の色彩または色調を設け、この毛髪をカールして多数ベースに植毛してなることを特徴とする請求の範囲第4項記載のヘア・アクセサリー。

(8) 合成繊維からなる毛材をこの毛材と異なる色彩または色調を有する染液または相互に異なる色彩または色調を有する複数の染液に浸して、一本の毛髪に複数の異なる色彩または色調を有するようになる人工毛髪の染色

法。

- (9) 毛材の中央側を毛材と異なる色彩または色調を有する染液に浸して、一本の毛髪に中央側と両端側にそれぞれ異なる色彩または色調を有するようにしてなる請求の範囲第8項記載の人工毛髪の染色法。
- (10) 中央側の染色部分の中側を毛材および中央側と異なる色彩または色調を有する染液に浸して、一本の毛髪に中側に向って段階的に異なる複数の色彩または色調を有するようにしてなる請求の範囲第9項記載の人工毛髪の染色法。
- (11) 毛材の略全体を染液に浸し、この染色部の一部を残してその染色部と異なる色彩または色調を有する染液に浸し、この染色部の一部を残して毛材および前記染色部と異なる色彩または色調を有する染液に浸して、一本の毛髪の一端側から他端側に向って段階的に異なる複数の色彩または色調を有するようにしてなる請求の範囲第8項記載の人工毛髪の染色法。
- (12) 一本の長尺の毛材を所定幅で多数回環状に巻回し、この巻回状態の毛材を染液に浸して染色し、染色後環状毛材の一端を切断してなる請求の範囲第8項又は第9項又

は第10項又は第11項記載の人工毛髪の色法。

(13) 多数の毛材を並列し両端を連結部材に固定し、この状態で毛材を染液に浸してなる請求の範囲第8項又は第9項又は第10項又は第11項記載の人工毛髪の色法。

(14) 有色のアクリルまたはアクリル系合成繊維からなる毛材の一部を前記毛材と異なる色彩または色調を有しかつ80～90℃前後に加熱され促染剤を有した染液に適回数浸して、一本の毛髪に複数の異なる色彩または色調を有するようにしたことを特徴とする人工毛髪の色法。

(15) アクリルまたはアクリル系合成繊維からなる毛材を相互に異なる色彩または色調を有しかつ80～90℃前後に加熱され促染剤を有した複数の染液に浸して、一本の毛髪に複数の異なる色彩または色調を有するようにしたことを特徴とする請求の範囲第14項記載の人工毛髪の色法。

FIG. 1

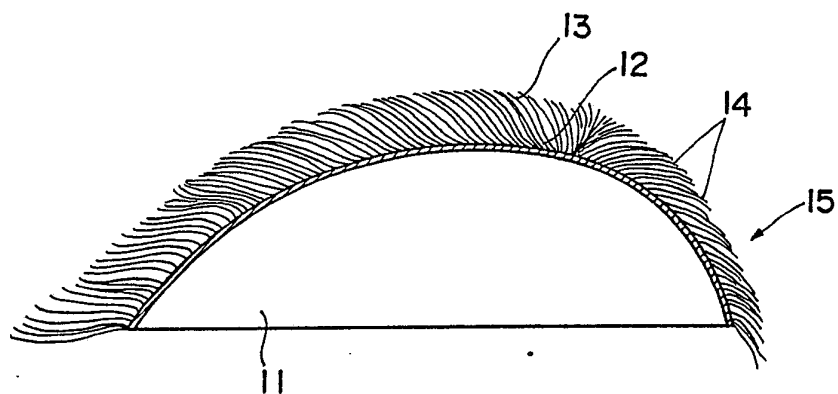


FIG. 2 ✓

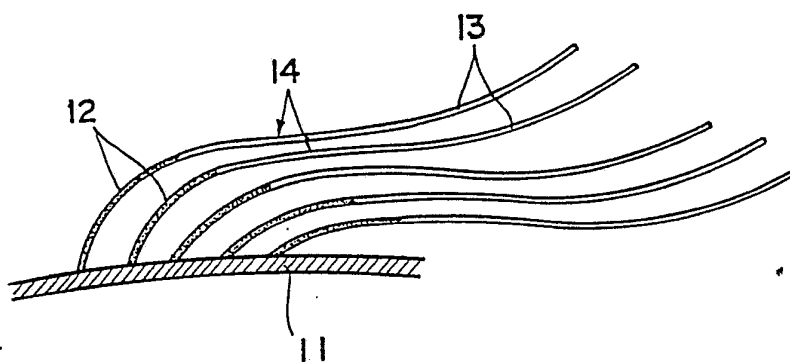


FIG.3

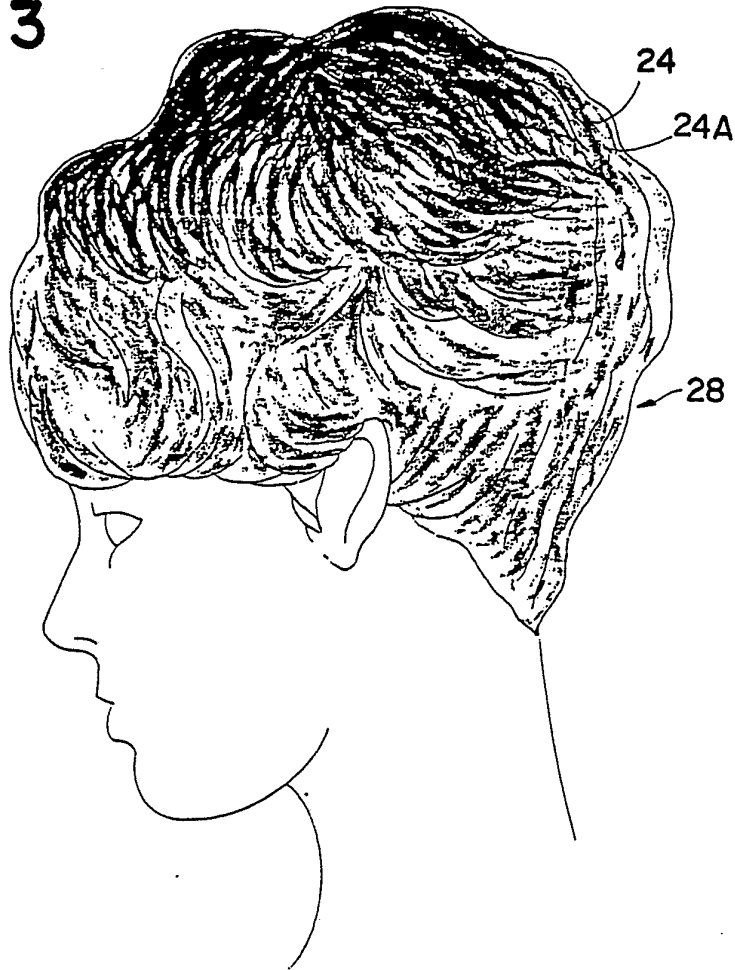


FIG.4

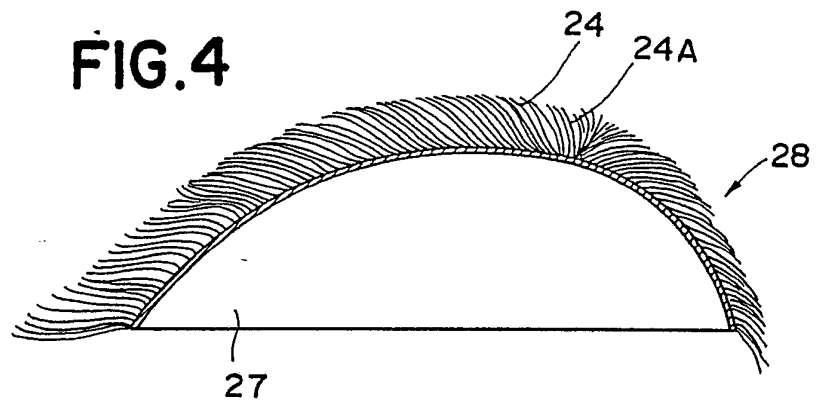


FIG.5

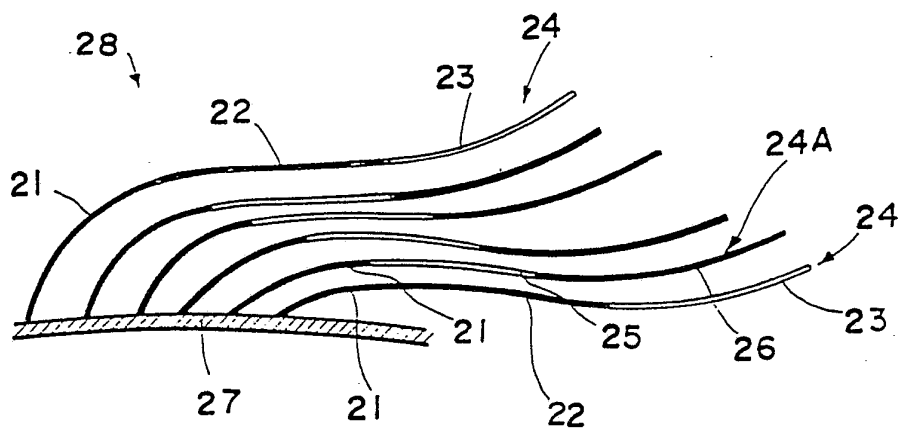


FIG. 6

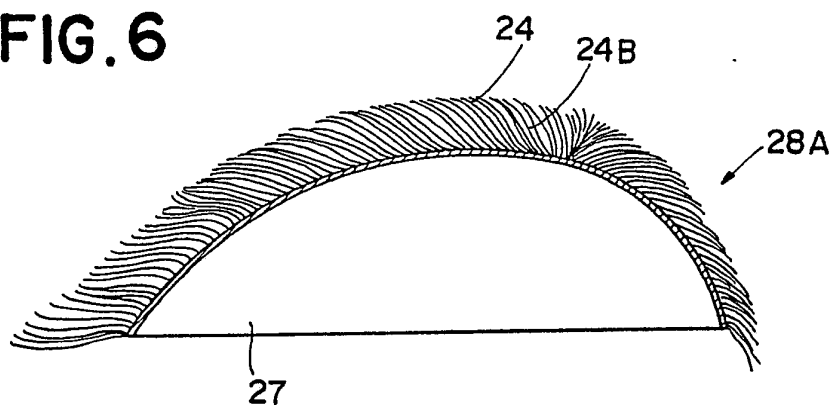


FIG. 7

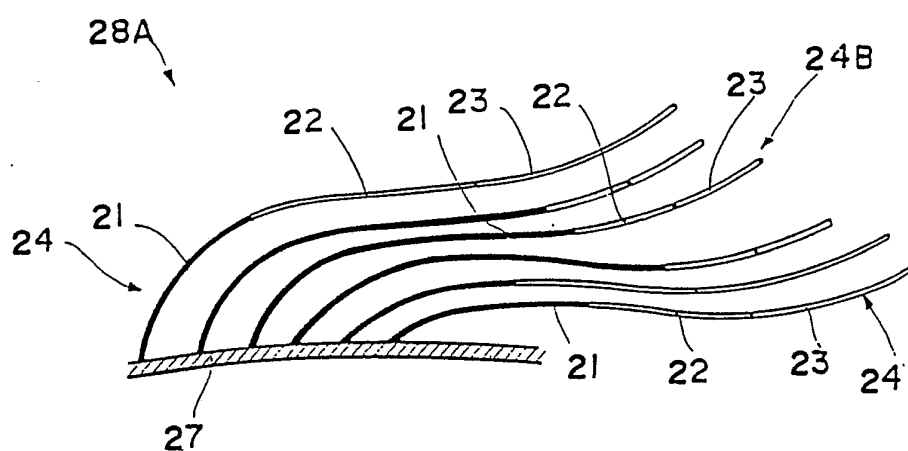


FIG. 8

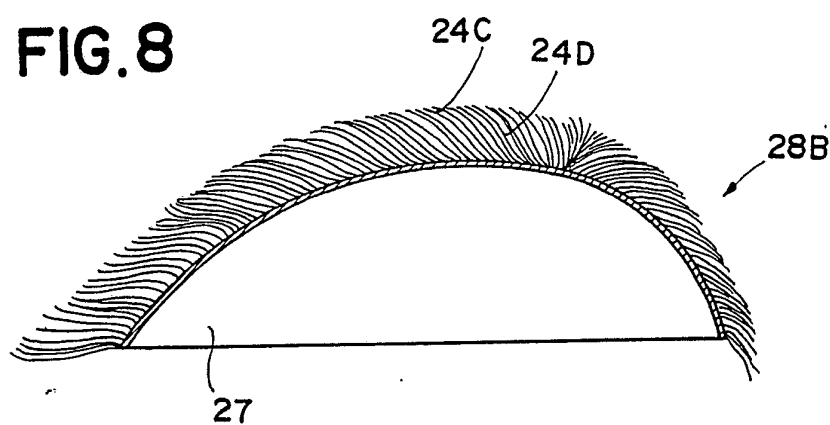


FIG. 9

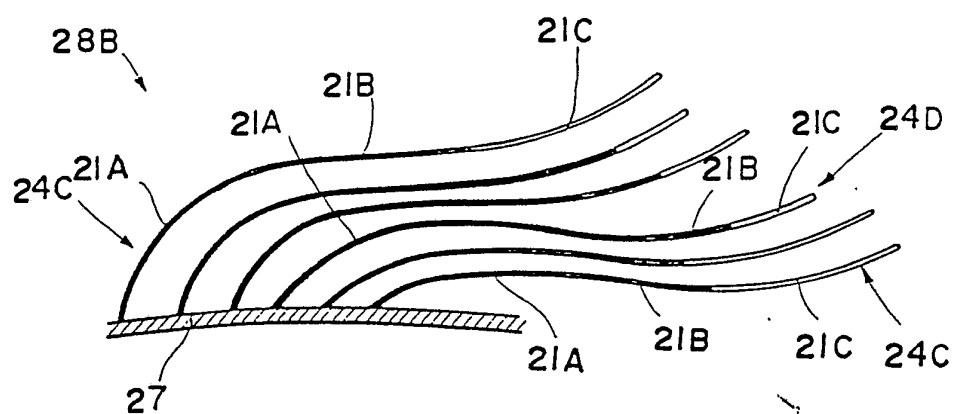


FIG.10

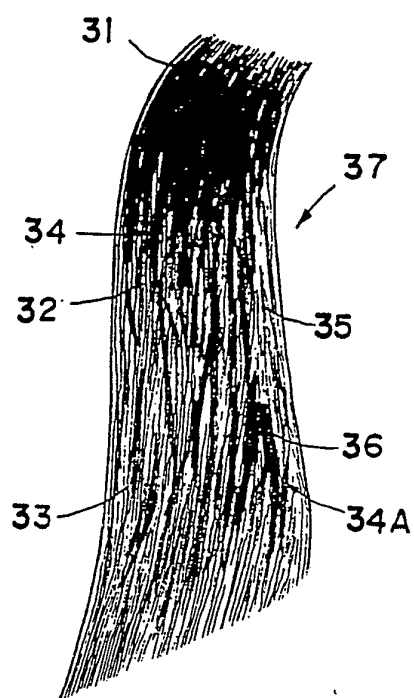


FIG.11

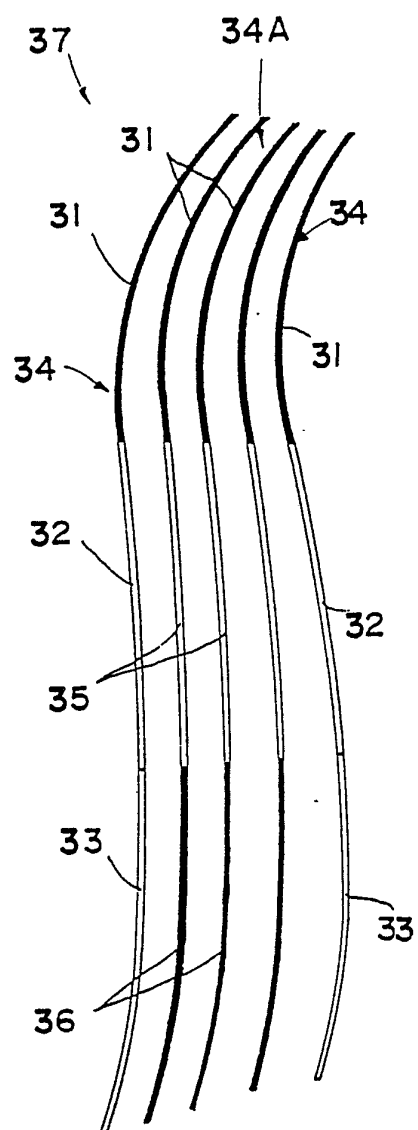


FIG.12

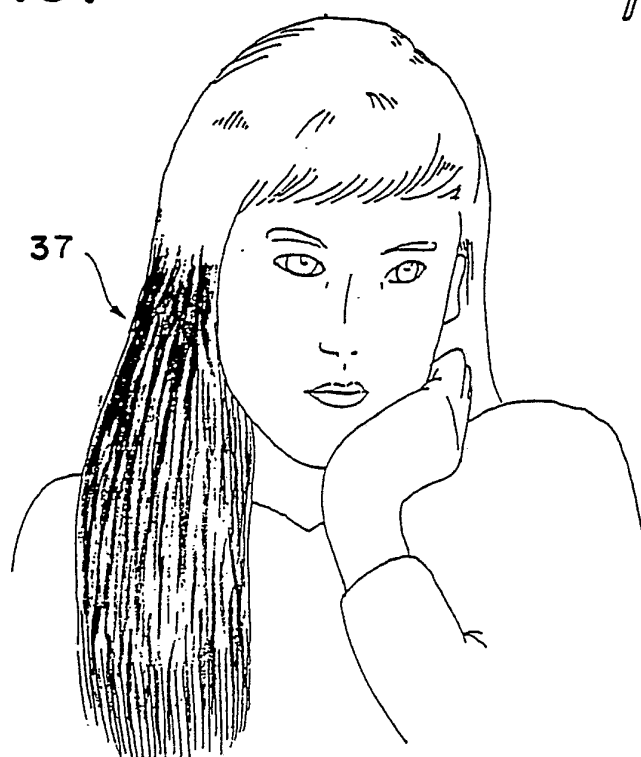


FIG. 13

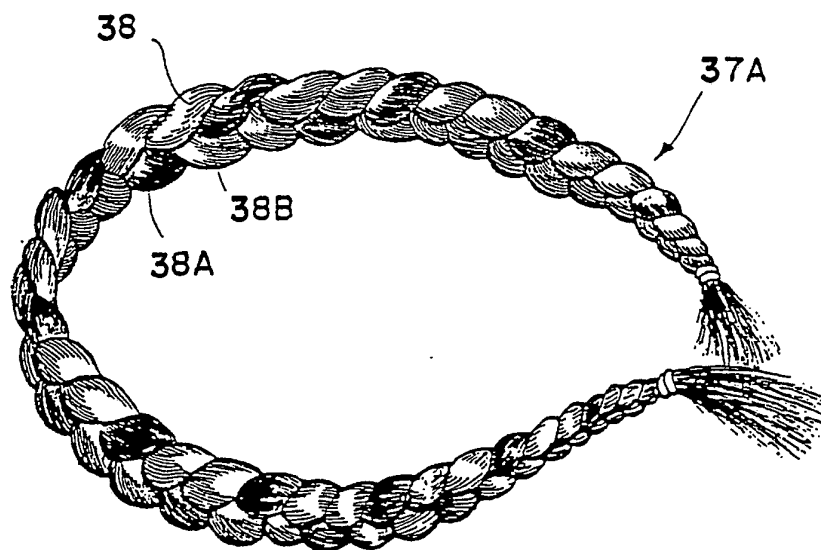


FIG. 14

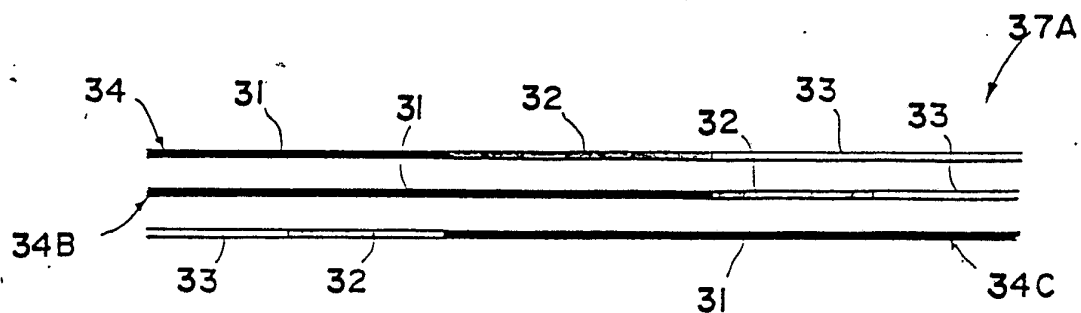


FIG. 15



FIG.16

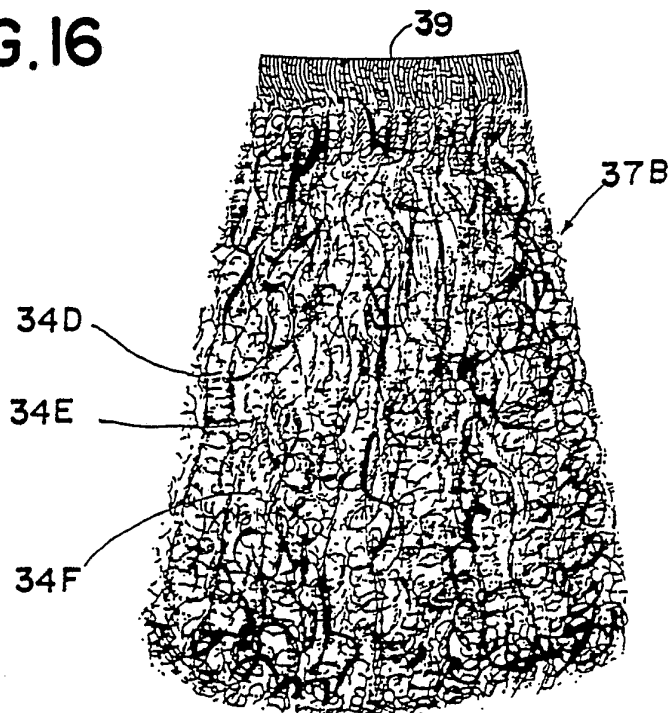


FIG.17

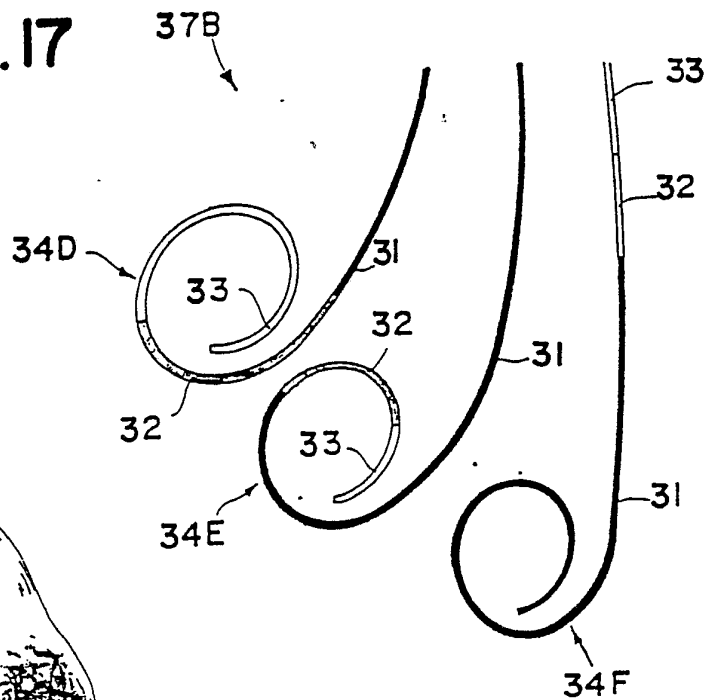


FIG.18

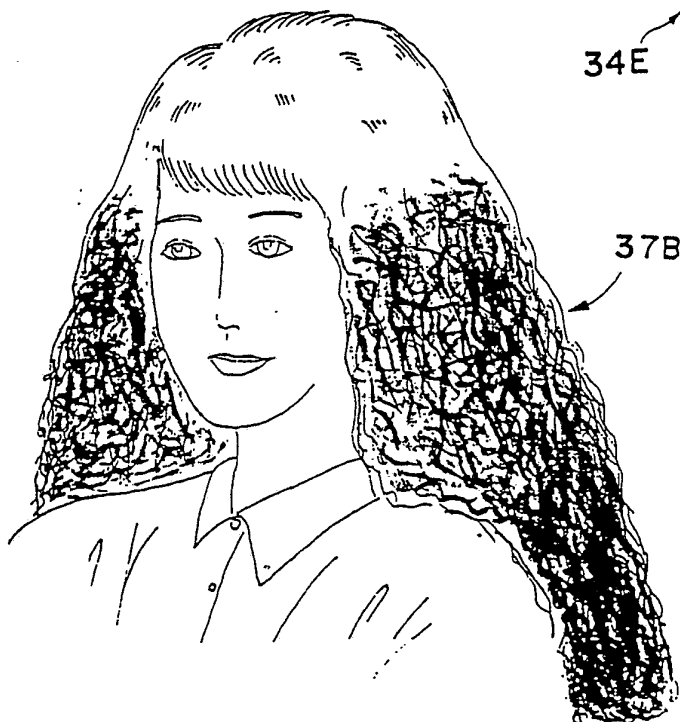


FIG. 19

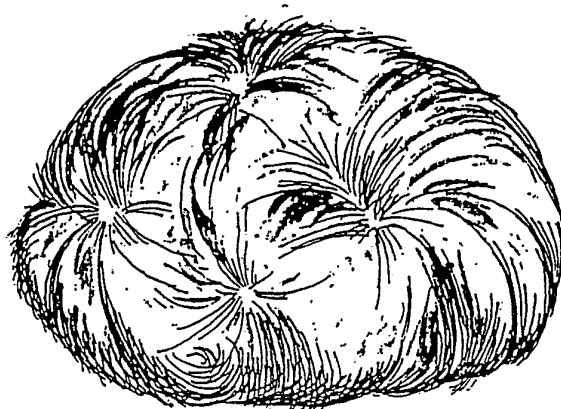


FIG. 20

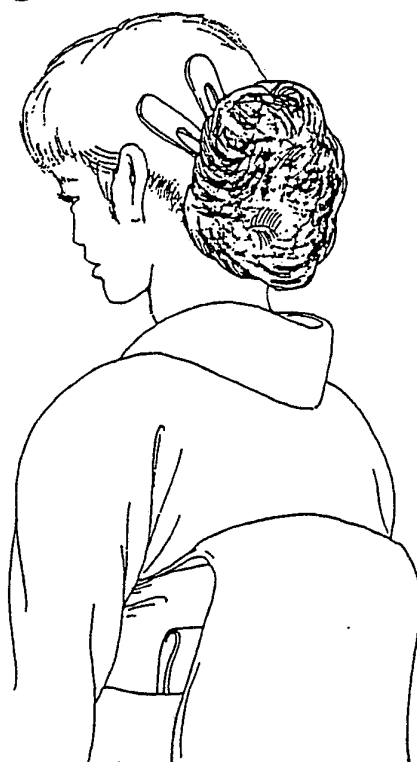
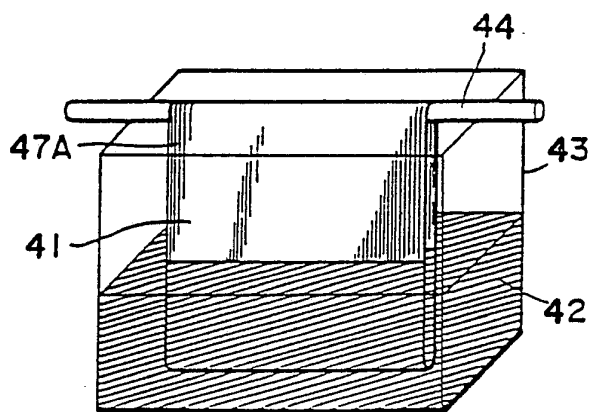
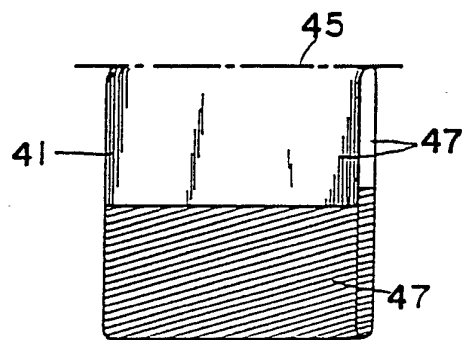


FIG.21 (A) ✓



(B)



(C)

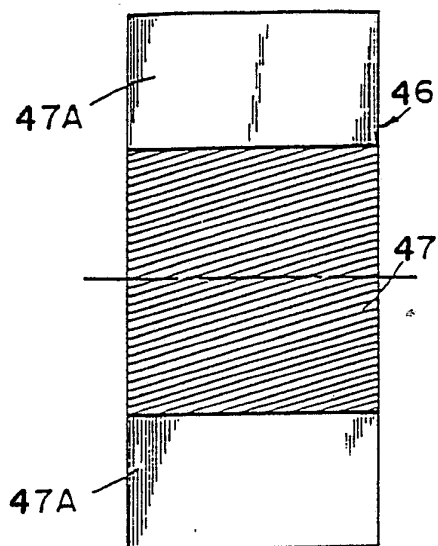
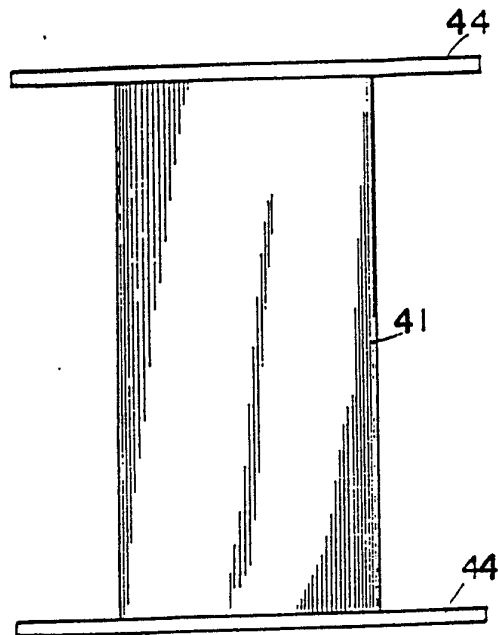
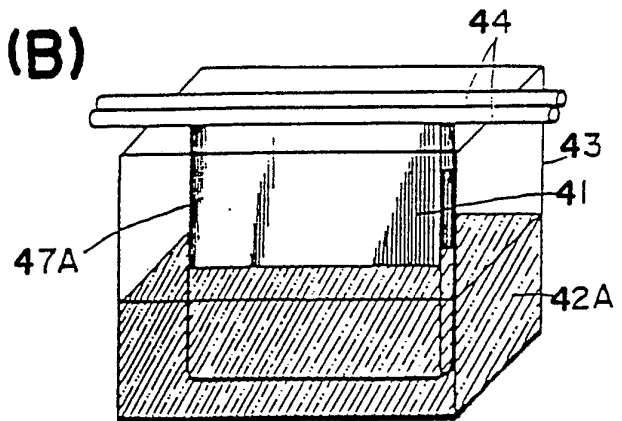


FIG.22

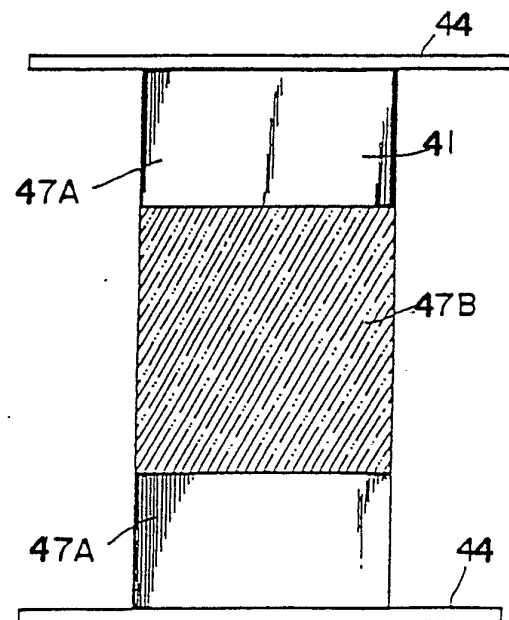
(A)



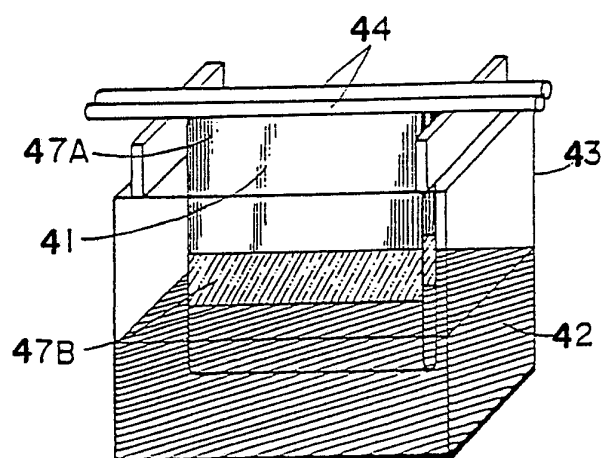
(B)



(C)



(D)



(E)

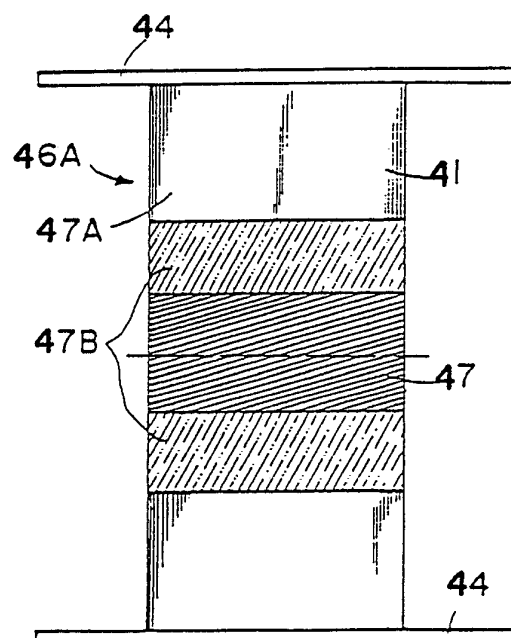
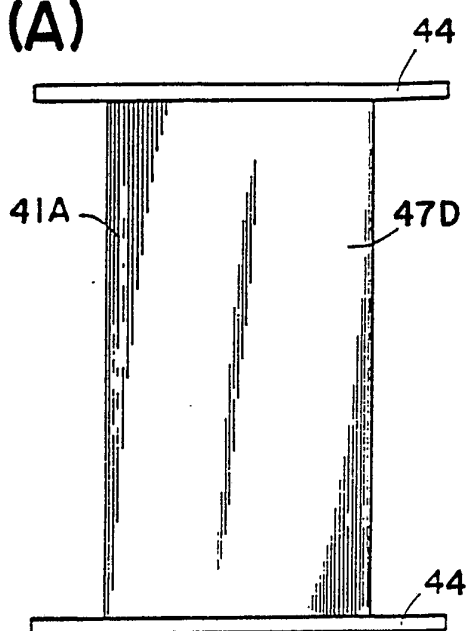
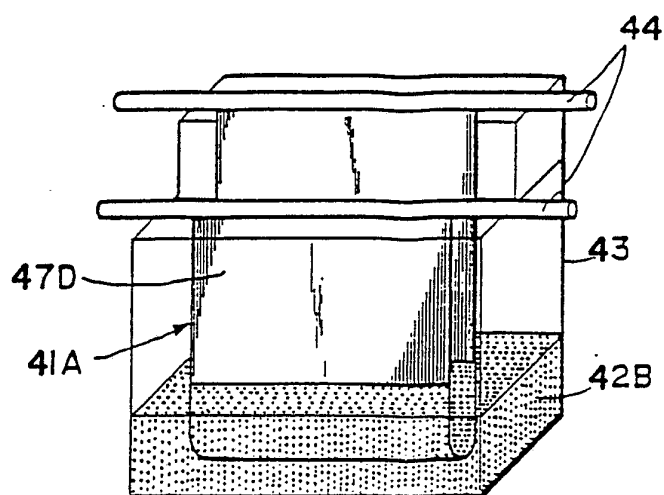


FIG.23

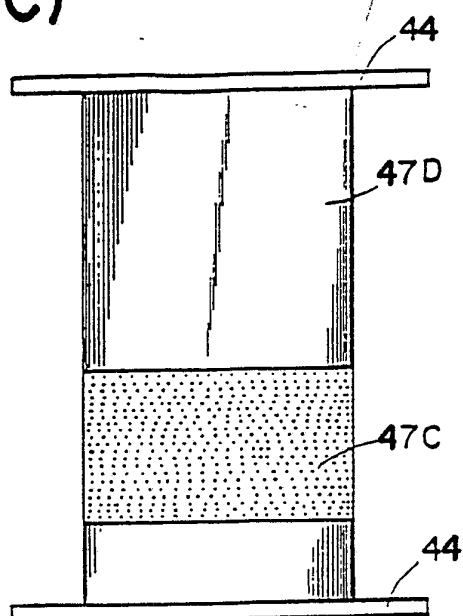
(A)



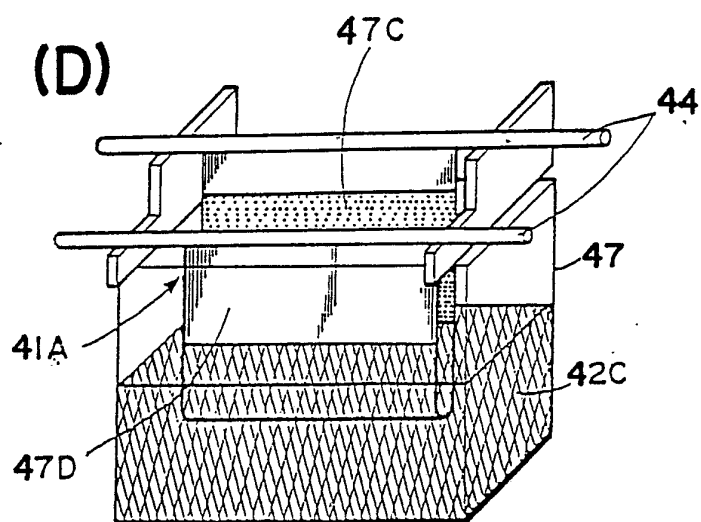
(B)



(C)



(D)



(E)

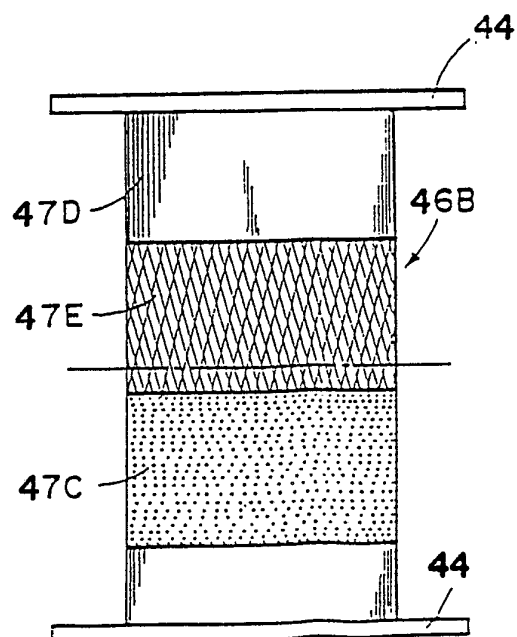


FIG. 24

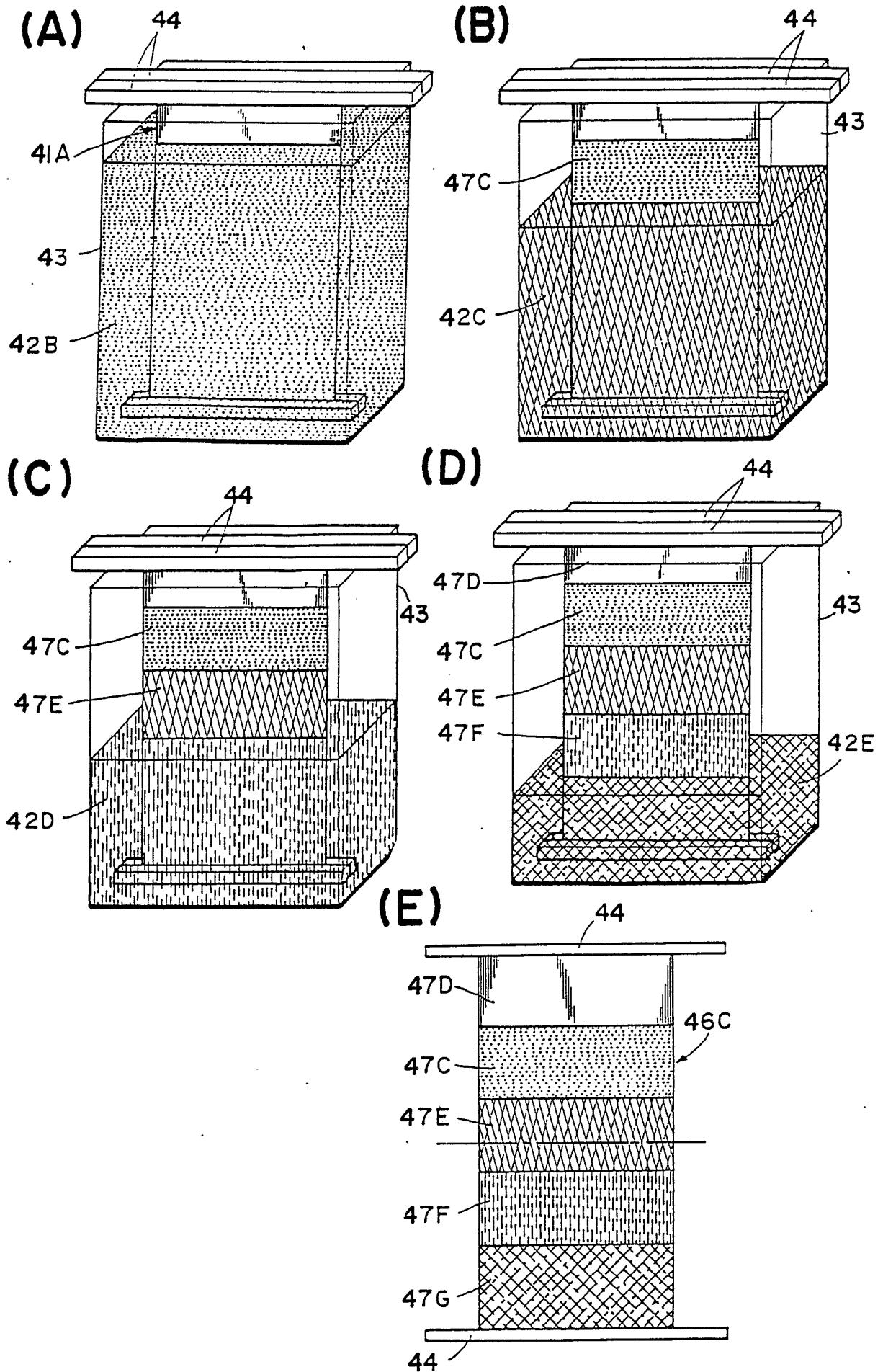


FIG.25

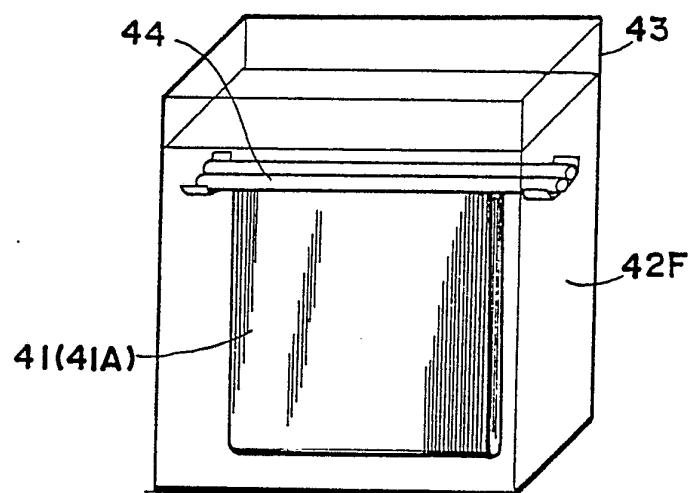
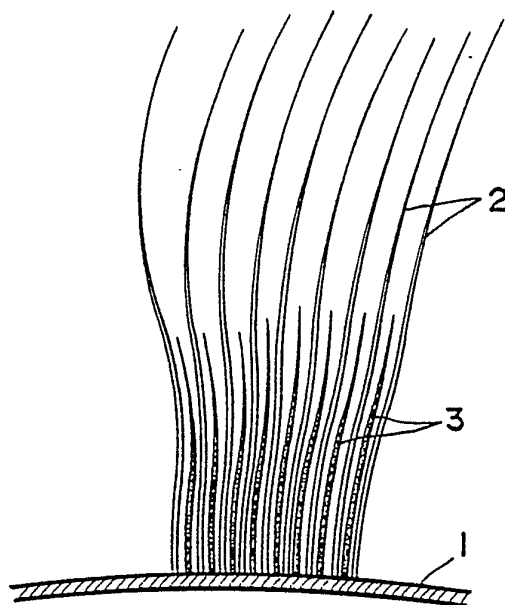


FIG.26



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International Application No PCT/JP88/00282

I. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER (if several classification symbols apply, indicate all) ⁶		
According to International Patent Classification (IPC) or to both National Classification and IPC		
Int.Cl ⁴ A41G3/00, D06P5/00		
II. FIELDS SEARCHED		
Minimum Documentation Searched ⁷		
Classification System	Classification Symbols	
IPC	A41G3/00, 5/00, D06P5/00, D06B1/00	
Documentation Searched other than Minimum Documentation to the Extent that such Documents are Included in the Fields Searched ⁸		
Jitsuyo Shinan Koho	1906 - 1987	
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971 - 1987	
III. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT ⁹		
Category *	Citation of Document, ¹¹ with indication, where appropriate, of the relevant passages ¹²	Relevant to Claim No. ¹³
X	JP, A, 54-146158 (Kanegafuchi Chemical Industry Co., Ltd.) 15 November 1979 (15. 11. 79) & JP, B2, 63-16481	1-7
Y	JP, B1, 39-3338 (Sekiyoshi Orimono Kabushiki Kaisha) 31 March 1964 (31. 03. 64) (Family: none)	8-15
Y	JP, B1, 37-5845 (Tanibuchi Minetaro) 25 June 1962 (25. 06. 62) (Family: none)	8-15
* Special categories of cited documents: ¹⁰ "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "Z" document member of the same patent family		
IV. CERTIFICATION		
Date of the Actual Completion of the International Search		Date of Mailing of this International Search Report
June 1, 1988 (01. 06. 88)		June 27, 1988 (27. 06. 88)
International Searching Authority		Signature of Authorized Officer
Japanese Patent Office		

I. 発明の属する分野の分類			
国際特許分類 (IPC) Int. Cl. ⁴ A41G3/00, D06P5/00			
II. 国際調査を行った分野			
調 査 を 行 っ た 最 小 限 資 料			
分 類 体 系	分 類 記 号		
IPC	A41G3/00, 5/00, D06P5/00, D06B1/00		
最小限資料以外の資料で調査を行ったもの			
日本国実用新案公報		1906-1987年	
日本国公開実用新案公報		1971-1987年	
III. 関連する技術に関する文献			
引用文献の ※ カテゴリー	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示		請求の範囲の番号
X	JP, A, 54-146158 (鐘淵化学工業株式会社) 15. 11月. 1979 (15. 11. 79) & JP, B2, 63-16481		1-7
Y	JP, B1, 39-3338 (関芳織物株式会社) 31. 3月. 1964 (31. 03. 64) (ファミリーなし)		8-15
Y	JP, B1, 37-5845 (谷淵峰太郎) 25. 6月. 1962 (25. 06. 62) (ファミリーなし)		8-15
※引用文献のカテゴリー 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技术水準を示すもの 「E」先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献 「T」国際出願日又は優先日の後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」同一パテントファミリーの文献			
IV. 認 証			
国際調査を完了した日 01. 06. 88		国際調査報告の発送日 27.06.88	
国際調査機関 日本国特許庁 (ISA/JP)		権限のある職員 特許庁審査官 八 巻 惺	